

現行「県がん対策推進計画の進捗状況」からみた本県の課題の整理(案)

<1. 食生活改善や運動習慣の定着の促進>

野菜摂取量や日常生活における歩数が減少していることから、ウォーキング等の運動習慣の定着や減塩、野菜摂取の促進が必要。

<2. たばこ対策の充実>

成人喫煙率は、女性は目標を達成したものの、男性は未達成であることや、受動喫煙の防止等のため、引き続き、喫煙が及ぼす影響と禁煙のための知識の普及啓発が必要。

<3. 胃がんに係る予防対策の強化>

胃がんにおける、死亡率(75歳未満年齢調整死亡率)と罹患率(年齢調整罹患率)が全国値を上回っており、効果的な予防法(野菜や果物の摂取、高塩分食品の過剰摂取を控える等)を普及啓発するなど、胃がんに係る予防対策の強化が必要。

<4. 検診受診率・精検受診率の向上>

がん検診受診率は、いずれの部位も全国平均を上回っているが、目標の50%には達していない。また、精検受診率においても、多くの部位で目標の90%に達していないため、関係機関と連携し、職域や家庭等も含めた幅広い普及啓発が必要である。

<5. 働く世代(40～64歳)の女性の乳がん予防対策の強化>

働く世代(40～64歳)の女性の乳がん死亡率が全国値を上回っており、予防対策として、自己触診によるしこりの確認や乳がん検診を普及啓発するなど、乳がんに係る予防対策の強化が必要。

<6. チーム医療の推進や拠点病院と地域の医療機関との連携強化>

拠点病院におけるがん医療関連チーム数は、改善傾向にあるものの目標に達していない。また、地域連携クリティカルパスの運用件数が停滞していることから、がん患者が退院後も住み慣れた地域で療養生活を送れるよう、拠点病院や地域の医療機関との連携強化が必要。

<7. 相談支援体制の充実>

県がん総合相談支援センターと関係機関との連携により、今後も、患者とその家族がより相談しやすい環境となるよう取り組む必要がある。また、がん患者等の不安や悩みに寄り添うピアサポーターの養成・フォローアップや、がん予防推進員の育成が必要。